

fig. 4. 3. 1
代々木公園+明治神宮と地形
1 : 50000



4. 3 代々木公園+明治神宮

■地形との関係

公園は台地の上に位置する。特に西側は地形のへりが公園の境界になっている。

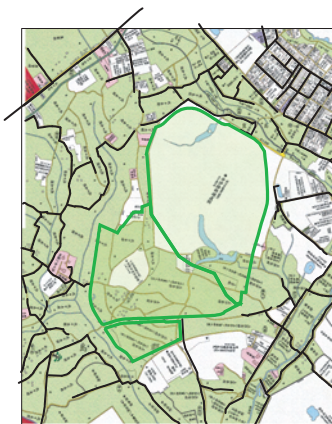


fig. 4. 3. 2
江戸時代の代々木公園+明治神宮周辺
1 : 50000



■江戸時代の代々木公園周辺

明治神宮となる場所には武家屋敷があるが、代々木公園となる場所は大部分が田畑である。周辺もほぼ田畑のままで、道もできていない。低地であるため宅地化しづらかったためだと思われる。

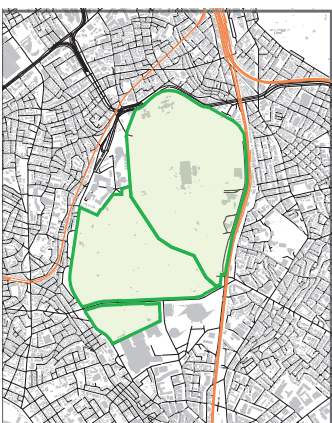


fig. 4. 3. 3
現在の代々木公園+明治神宮周辺
1 : 50000



■現在の代々木公園周辺

陸軍代々木練兵場から、戦後は米軍の宿舎敷地・ワシントンハイツとなり、東京オリンピックの選手村を経て公園となった。隣接する明治神宮の木々と共に緑濃い森を作っている。

北側は高速道路、東側は鉄道が隣接し、公園と周辺都市空間とは断絶している。西側は、一般道が面していて、すぐ近くに鉄道がある。またこの道路と鉄道との間には河川が埋め立てられた遊歩道がある。これらはどれも等高線に沿っている。南側は東京オリンピックの時期に整備され、幅の広い歩道が公園から渋谷に向かって伸びている。

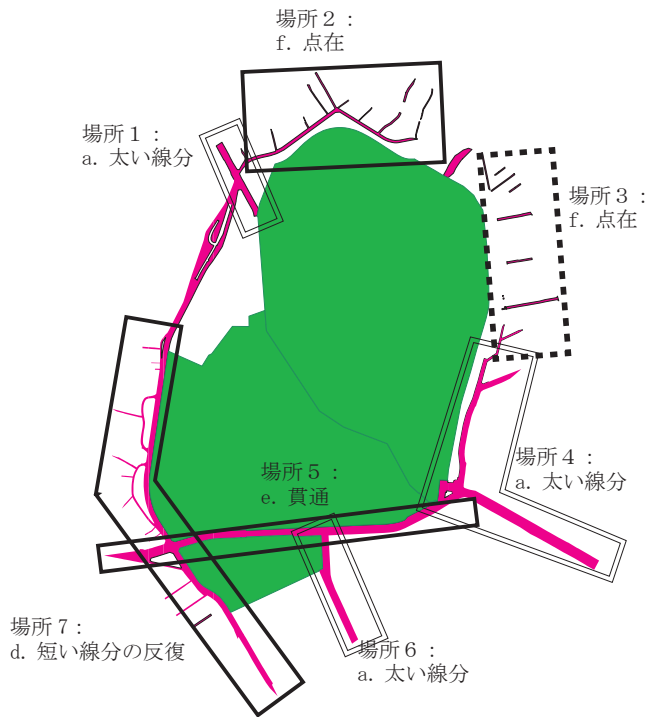


fig4. 3. 4 代々木公園+明治神宮の視覚領域の分類
s = 1 : 25000

■視覚領域の類型

代々木公園+明治神宮の視覚領域は、右図のように分けられる。

場所1 : a. 太い線分

場所2 : f. 点在

場所3 : f. 点在

場所4 : a. 太い線分

場所5 : c. 長い線分の反復

場所6 : a. 太い線分

場所7 : c. 短い線分の反復

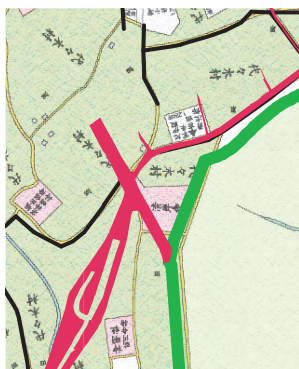


fig4. 3. 5
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000

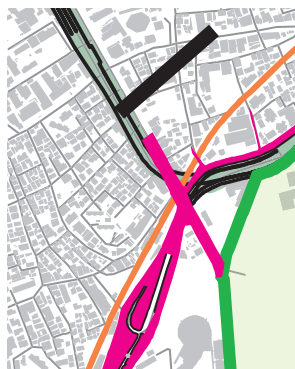


fig4. 3. 5
現在と視覚領域
s = 1 : 20000

○場所1 : a. 太い線分

分析A

高架

道路は曲がることなく公園から続いていくが、高速道路の高架と交差することによって、視覚領域は途切れる。

分析B

公園：入り口

周辺：並木道

公園（明治神宮）へと続く道は、並木があり参道として整備されているが、高架によって途切れている。



fig4. 3. 6
明治神宮へと向かう並木道



fig4. 3. 7
見えの境界となっている高架



fig4. 3. 8
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 9
現在と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 10
高速道路越しの公園の見え



fig4. 3. 11
高速道路越しの公園の見え

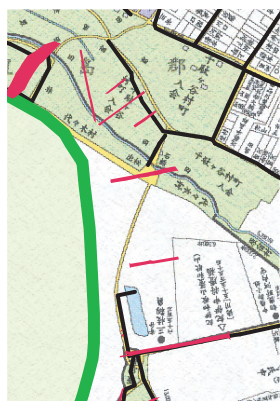


fig4. 3. 12
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 13
現在と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 14
鉄道越しの公園の見え

○場所 2 : f. 点在

分析 A

境界なし

道路に明確なパターンはなく、視覚領域の切れ方もまちまちである。

分析 B

公園には高速道路が接している。

公園の境界にそって高速道路があるため、公園と周辺都市とのつながりは切れている。

○場所 3 : f. 点在

分析 A

境界なし

公園に接する鉄道越しに公園が見える場所が点在している。

分析 B

公園には鉄道が面している。

公園の境界に沿って鉄道があるため、公園と周辺都市との繋がりはない。奥まった静かな場所となり、高級住宅地となっている。



fig4. 3. 15
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000

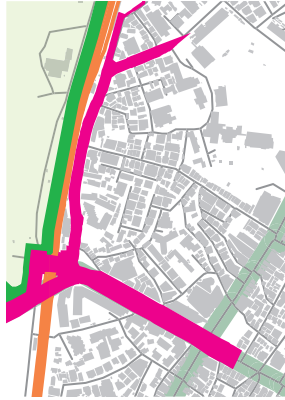


fig4. 3. 16
現在と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 17
表参道からの公園の見え



fig4. 3. 18
明治神宮前の橋



fig4. 3. 19
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 20
現在と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 21
公園に挟まれた道路

○場所 4 : a. 太い線分

分析 A

境界なし

明治神宮に向かって参道として表参道が一直線に延びている。

分析 B

公園：入り口

周辺：表参道。空間にゆとりがある。広場的利用。

明治神宮、公園の入り口周辺は空間に余裕があるため人が溜まり、広場のように使われている。

○場所 5 : e. 貫通

分析 A

境界なし

分析 B

公園：フェンス

周辺：幹線道路

公園の間を幹線道路が通っており、緑の豊富な道路空間が生まれている。

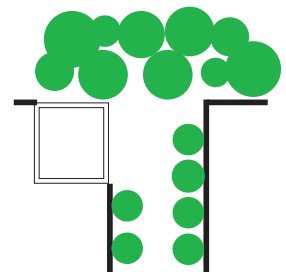


fig4. 3. 26
公園から伸びる遊歩道と広場



fig4. 3. 22
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 23
現在と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 24
公園へと続く遊歩道



fig4. 3. 25
イベントが行われる遊歩道

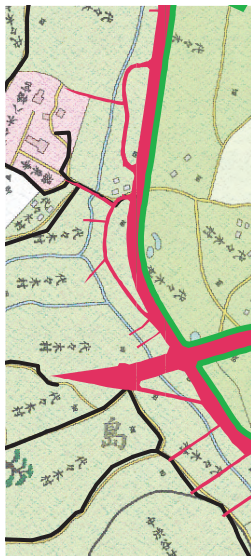


fig4. 3. 27
江戸期と視覚領域
s = 1 : 20000

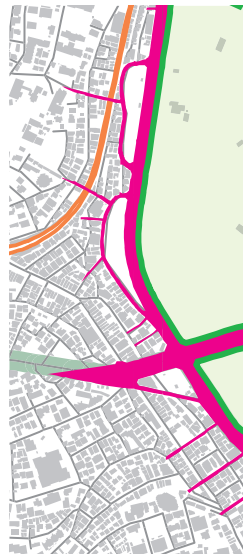


fig4. 3. 28
現在と視覚領域
s = 1 : 20000



fig4. 3. 29
小公園越しに見る公園



fig4. 3. 30
公園と向かい合う小公園



fig4. 3. 31
公園と向かい合うカフェ

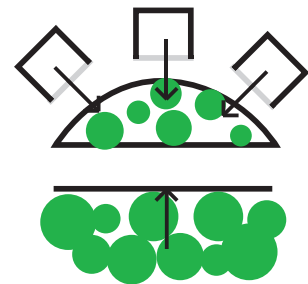


fig4. 3. 32
小公園を囲い込む空間

○場所6 : a. 太い線分

分析A

境界なし

公園に繋がる遊歩道が緩やかに折れ曲がることで、視覚領域は閉じている。

分析B

公園：入り口、一部を広場として開放

周辺：遊歩道

公園から凸状に遊歩道が伸びており、様々に使われて場になっている。遊歩道と公園が接する場所は、公園の側が広場となっている。

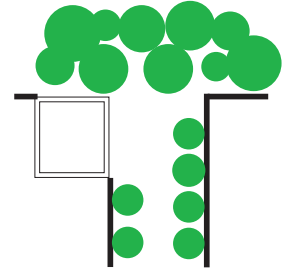


fig4. 3. 26
公園から伸びる遊歩道と広場

○場所7 : d. 短い線分の反復

分析A

地形変化による街路パターンの変化

地形の変化に対応するように道は折れ曲がっている。

分析B

公園：斜面に植樹

周辺：公園と向かい合う小公園

公園の境界は斜面に植樹されることで、平地であるより緑の見えが増幅されている。隣接する都市空間には公園と向かい合うように小公園が作られている。公園の境界がゆるやかに曲がっていることから、小公園を中心としたまとまり感が生まれている。また小公園と向かい合うようにカフェがあり、公園の環境を利用している。